



## 補正予算など 21 議案を可決

9 月定例県議会

### 肉牛の全頭検査

現時点異常なし

石井知事が説明

9 月定例県議会が、9 月 5 日から 27 日までの 23 日間行われ、県立学校の耐震化前倒しの経費など 82 億 1946 万円の本年度一般会計補正予算など執行部提案の 15 件、議員発議 6 件の計 18 議案を可決し、閉会しました。

9 月議会での私の質問機会はありませんでしたが、公明党岡山県議団の代表質問で、私が所属する環境文化保健福祉委員会、防災・環境対策・新エネルギー特別委員会や農業政策に関する質問を担当しました。

私が担当した質問内容は以下の通りです。

## 防 災 対 策

### 1. 総合対策本部への中間報告

県民意識調査では「災害・救急医療体制の整備」「高齢者や障がいのある人など災害時に援護が必要な方々への支援体制の整備」「海岸や河川の堤防などの防災施設の整備」が上位となっている。県民の声をどう政策に反映するのか。

→ プロジェクトチームでは、

県民意識調査の結果も参考に、災害・救急医療体制の整備など 3 項目をいずれも重点的に取り組むべき防災対策と位置づけている。できるだけ数値目標を定めて取組の内容や方向性を明らかにしアクションプログラムとしてまとめ着実に推進したい。

### 2. 災害時要援護者の個人情報等

災害時要援護者避難支援プランの個別計画を策定しているのは 4 市町にとどまっている。その背景には個人情報の問題があるが、災害時要援護者の情報を、自主防災組織等地域に提供する際の個人情報の保護をどうするのか。また、市町村にどう助言していくのか。

→ 自主防災組織等に提供する場合には、支援に必要な範囲の範囲に限定するほか、情報を共有する関係者の範囲を具体的に定める必要がある。市町村に対しては、個人情報保護関係法令などの研修会を開催するほか、誓約書を徴収して守秘義務を明確にするなど、適切な対策を助言していく。

## ス ポ ー ツ 振 興

### 1. 地域スポーツ推進計画

今年 6 月に成立したスポーツ基本法は、県に対して地域スポーツ推進計画の策定に努力するよう求めている。本県でも早急に計画を策定し、スポーツ振興に努めてほしい。

→ スポーツ振興は、現在策定中の次期おかもま夢づくりプランにおいて、豊かで潤いのある暮らしづくりを進めるうえで重要な柱と位置付けており、現行の岡山県スポーツ振興基本計画についても、25 年度までの期間終了を待たず、新たな地方スポーツ推進計画として改訂に取り組みたい。

### 2. 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブの取組はボランティア中心で、運営も厳しい。どのようにかわり地域スポーツを推進するのか。また、誰もがいつでも気軽に体を動かせる施設を設置することは健康に暮らすために大切だが考えは。

→ クラブの実情に応じ、スポーツ振興くじ助成金による自立支援

事業やクラブマネージャー設置支援事業の活用について助言を行うなど、県体育協会と連携し支援を行っている。今後とも地域スポーツの中核となる当該クラブの設立・育成に一層努める。

## 県産畜産物の放射性物質調査

### 1.背景等

放射性セシウムに汚染された稲わらが県内に流通していない事実等からすれば、県産畜産物の安全性は確保されている。そのうえで、県独自の調査を行うのはなぜか。背景や生産者団体の意見、その考えは。

→ 放射性物質による牛肉汚染をめぐる風評被害等により全国的に牛肉の消費が減退し、肉用牛経営が厳しい状況となっているため、生産者団体から県に対し、検査を早期に実施するよう要請があった。県としては県産牛肉の安全性は十分確保されていると考えるが、生産者の不安解消と消費者の安心感を確保するため県独自の検査を行うこととした。

### 2.牛肉の全戸検査

牛肉の全戸検査はなぜ強制ではないのか。また、これまでの検査結果はどうか。

→ 今回の検査は、生産者の要望を受け実施するものであり強制ではないが、これまでに出荷した肉用牛農家はすべて検査を申し込んでいる。9月8日までに県内の肉用牛頭数の41%に当たる32農場の検査を終え、いずれも異常はない。

## 自殺対策

### 1.取組

全国では年間3万人が自殺している。本県の自殺者は22年で451人と交通事故死者数の4倍以上となっている。夢づくりプランに自殺対策について目標を定め、しっかり取り組むべきだ。

→ 夢づくりプランの素案には、メッセージ施策である「心と体の健康づくりの推進」で、関係機関・団体等と協働して普及啓発等に取り組むことを記載している。今回の提案を踏まえ、「暮らしやすさ指標」に自殺対策に関する目標を設定することを検討する。

### 2.うつ病の認知行動療法

県の「自殺対策基本計画」素案には、以前から提案しているうつ病患者の認知行動療法はほとんど触れられていない。本療法の検討状況と効果はどうか。また、基本計画にしっかりと組み入れてほしい。

→ 関係者との意見交換では、認知行動療法は、通常の医療の中で、医師の判断により適切に選択・実施されるものであるとのことだった。今年度、国がセンターを設置し、研修の受講者枠を拡大しており、医療現場での取組が進むと考える。県としても、今後基本計画を策定する中で、認知行動療法に関する記載を充実させ、普及促進に努める。

## 発達障害

相談窓口や特別支援学級の拡充などを行い、さらに夢づくりプランにも目標として、特別支援学級に通えない子どもの数をゼロにすることを掲げてはどうか。

→ 現在、9市町でコーディネーターによる相談体制が整備され、今後、全市町村での整備を目指し市町村教委に働きかけたい。特別支援学級は、本年度は小・中学校で150の新設要望に対し95学級設置した。設置しない場合も、待機ではなく近隣の特別支援学級に入級するか、通常の学級で学習している。プランの目標は、一律に設定することは考えていないが、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、必要な指導や支援を行い、今後とも特別支援教育の一層の充実に努めたい。

## ささい茂智 “プロフィール”



昭和38年10月13日 総社市生まれ（48歳）

【学歴】昭和57年岡山県立総社高等学校、昭和61年創価大学経済学部卒

【職歴】昭和61年岡山県農業協同組合中央会、平成16年参議院議員谷合正明公設秘書、平成23年岡山県議会議員初当選（岡山市中区選挙区）

【議会】環境文化保健福祉委員会委員、防災・環境対策・新エネルギー特別委員会委員

【家族】妻、一男一女、母、妹の6人

【座右の銘】初志貫徹

【趣味】スポーツ（ジョギング、軟式野球）